

募 集 要 項

| | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 氏 名：森永泰史 | 研究室：第 4 研究室棟 309 |
| 専 攻 分 野：製品開発論、マーケティング、デザインマネジメント | |
| 演習テーマ：デザイン・シンキングの実践 | E-mail：morinaga@cc.kyoto-su.ac.jp |

演習内容・主なテキスト

●ゼミのテーマ

“脱・座学の実践形式のゼミナール”

1. 商品開発やマーケティングに関することを行う
2. インプットよりもアウトプットを重視する。なので、テキストは使わない
3. 実践形式で行う(与えられた課題にグループ単位で取り組む)

●ゼミの目標

1. コミュニケーション力を鍛えること
2. 洞察力を鍛えること
3. 成長のために、自己投資する習慣を身に着けること

<演習 1 のコンテンツ>

1. 「私のお気に入り」のプレゼンテーション
2. 工作物を通して自分たちを表現する
3. 産大を教育機関とは異なる角度から眺めて、その PR 動画を作る
4. 似て非なるものを集めて、比較する など

<演習 2 のコンテンツ>

1. 三本足の生物のための自転車を考える
2. 新しいコーヒーの飲み方を考える
3. 価格差の正体を考える：100 円ピーラーと 1000 円ピーラーでは何が違うのか？ など

<演習 3 のコンテンツ>

1. グッドデザイン賞(ニューホープ賞)に挑戦
2. TOKYO MIDTOWN AWARD に挑戦 など

<演習 4 のコンテンツ>

1. ゼミ活動報告大会に向けての準備
2. 気になる日経新聞の記事をプレゼンテーション
3. 就職活動に向けての個人面談や内定者(4 回生)との対談
4. ゼミレビュー など

<演習 5・6 のコンテンツ>

卒業論文の作成。なお、過去には以下のような卒業論文を作成しました。

- ・携帯電話端末の機能向上とメーカーの栄枯盛衰
- ・就職活動における学生の企業選びの現状と課題：イメージ先行型就活の問題点
- ・医療コーディネーターの普及に関する問題 etc.

教員からの要望

●要望その1：自己投資の覚悟

当ゼミでは成長するために、日経新聞の購読(@演習 4)や学外のワークショップへの参加(@演習 2or3)、企業・店舗への訪問(@演習 3)などを求めます。**これらは任意ではなく義務です。**これらの活動を行うには、当然、お金がかかりますが、成長のための必要経費と割り切ってもらいたいと思います。人は身銭を切らない限り、真剣度が高まりませんし、真剣度が高まらないと、十分な知識やスキルを身に着けることは出来ません。

●要望その2：主体性

ゼミでは、大まかな「お題」はこちらから提示しますが、具体的に取り組むべき(あるいは、解決すべき)課題は、自分たちで主体的に設定してもらいます。また、少なくとも、日頃から新聞やニュースなどを通じて、現在の経済・社会情勢に注意を払うことが求められます。大学では、高校までとは異なり、自ら進んで勉強する姿勢が重要になります。受け身では何も得られません。そのため、それが出来ない人には、**学期途中でも退出してもらいます。**

●要望その3：出席態度

グループワーク主体というゼミの性格上、遅刻・欠席はグループの他のメンバーに多大な迷惑をかけることとなります。そのため、遅刻・欠席には厳正に対処します。一度でも無断欠席を行えば、単位が認められない可能性があります。当然のことながら、学生である以上、その本分は勉学であり、クラブ活動やアルバイトは言い訳になりません。

履修希望科目

マーケティング入門の単位を修得していることが望ましい

教員の自己紹介

関西生まれの関西育ちですが、大学教員となってからは、11年間札幌に赴任していました。特技と言えるほどの大したものはありませんが、敢えて言うなら、街中で見かける車の名前をほぼすべて言えることと(時には、そのデザインを手がけたデザイナーの名前も言える)、共感覚を持っている(た)ことくらいでしょうか。

ゼミ生からの紹介

先輩 女子 A

森永ゼミの授業内容は、1つのテーマに対して4~5人のグループで約4~5週間をかけて取り組み、最後にみんなの前でパワーポイントを使ったプレゼンをするといったものです。私たちがこれまでに取り組んだテーマは、「グッドデザイン賞(ニューホープ賞)に挑戦」、「TOKYO MIDTOWN AWARDに挑戦」などです。ゼミの雰囲気はとてもよく、ゼミの時間は毎回楽しいです。森永ゼミは今期で10期になります。ゼミの歴史を作っていくのはまだまだこれからなので、ぜひ一緒に楽しいゼミを作っていきましょう。

先輩 男子 B

私たちは森永先生の下で、主に製品開発やマーケティングについて学んでいます。マーケティングといっても、私たちは「身近なところから学ぶ」ということを重視しているので、興味を持ちやすく、理解しやすいです。グループワークが多いこともあって、みんな仲良しですが、真面目に取り組むときは取り組んで、力を抜くときは抜く、メリハリのあるところを私はこっそり気に入っています。僕たちと森永ゼミの伝説を作りませんか？